

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 工学部

組織目標		達成状況(成果)					
(下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。)							
教 育	<p><改組></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度実施の再編に向け、入試方法、授業科目設定、時間割、コース決定方法などの課題を解決する。 <p><学士力保証></p> <ul style="list-style-type: none"> FC活動に積極的に参加し、工学部DPの確立とともに、平成23年度からの実施に向けて準備する。 	<p><改組></p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決をしっかりと行った。特に、今年度途中より、新学科体制での責任分担者を決定し、入試をはじめとする様々な問題について積極的に対処した。 特に、来年度からは旧7学科体制と新4学科が共存するため、新4学科長に加え、旧7学科長も管理職となるように要望し、認めていただいた。なお、新4学科長は旧学科長を兼務するため、学科長数は今年度同様の7名である。 <p><学士力保証></p> <ul style="list-style-type: none"> 学士課程教育検討WGにも積極的に参加(協力)した。 工学部DPだけではなく、学科DPの確立も行った。 また、学士力保証システムをスムーズに導入するため、シラバスをサイボースで管理するように変更した。なお、工学部は他学部在先駆けてシラバスを導入していたため、独自システムで管理していた。 	④	3	2	1	
	<p><若手教員支援></p> <ul style="list-style-type: none"> 若手教員の研究支援のため、従来の海外派遣を継続するとともに、教育に関する負荷の軽減策を検討する。 <p><研究資金獲得></p> <ul style="list-style-type: none"> 外部資金、特に共同研究と委託研究の増加を目指し、検討を行う。 	<p><若手教員支援></p> <ul style="list-style-type: none"> 若手教員の研究支援のため、従来の海外派遣を継続実施した。なお、全学で同様な支援が開始されたため、本支援は来年度以降中止する予定である。 教育に関する負荷の軽減策については、検討を継続している。 <p><研究資金獲得></p> <ul style="list-style-type: none"> 従来と同様に、毎月の教授会で研究資金(共同研究、受託研究、奨学寄附金)の受け入れ状況(氏名と金額)を周知し、受け入れの意識向上を図っている。 産学連携委員会を開催(2回)し、今後の対策を検討した。 	達成度:	④	3	2	1
研 究	<p><高校との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度実施した以下の事項について、継続実施する。 工学部独自の出前説明会 中四国の工学部説明会 <p><広報活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> HPを刷新し、工学部の魅力を伝えるように努力する。 <p><50周年記念事業の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> 工学部創立50周年事業を実施し、一般に学部・学科を公開する。 	<p><高校との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> 工学部出前説明会および高大連携(大学訪問・出前講義)を46回実施した。このうち13回は、工学部が独自に実施したものである。 <p><広報活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> HPについては、大学HPの様式を取り入れ、工学部および各学科の内容を刷新した。 <p><50周年記念事業の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> 盛大に行うことができた。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生向けの工学理科教室を数回開催し、好評であり、新聞などで報道された。 	達成度:	④	3	2	1
	<p>社会貢献</p>	<p><50周年記念事業の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> 盛大に行うことができた。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生向けの工学理科教室を数回開催し、好評であり、新聞などで報道された。 	達成度:	④	3	2	1
評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義 (抜 粋)					
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法: 前期入試, 後期入試, AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値					
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法: 4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。					
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年: 正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者					
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。					
	共同研究件数, 受託研究件数, 受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数, 受入金額					
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。							
<p>今年度は、通常の業務事項に加え、平成23年度からの再編に向けた準備や50周年記念事業など多くの業務を実施し非常に良好に終えることができた。また、就職難にもかかわらず、就職率も例年と同様な状況である。なお、「試験における不正行為」などが発生した。このため、現状の様々な問題点抽出と対処策検討を来年度は実施する。</p> <p>広報活動を充実させ、学部入試倍率の向上を目指した。推薦入試と後期日程では倍率を向上できたが、前期日程では倍率が低下(2.0→1.9)してしまった。そこで、この3年間における学科再編や学部入試倍率向上の検討内容をまとめ、反省および今後の対策に関する会議を3月8日に実施した。この内容を整理し、来年度の活動に生かす予定である。なお、さらなる広報活動などを充実するため、企画・広報を担当する副学部長の設置を要望し、認めていただいた。</p> <p>また、学部長の所信を平成22年4月の教員会議で提示し、12月と平成23年3月の教員会議で状況を報告した。また、3月開催の部局連絡会において紹介した。例えば、運営の効率化により、印刷枚数を35%削減できた。</p>							

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。